テーマ３「産業支援の在り方」

産業建設常任委員

《テーマ選定理由》

柏崎市の地域経済を維持し、更なる発展を目指すためには、行政が行う産業支援は必要不可欠であると捉えている。

本市は第五次総合計画後期基本計画において、重点戦略の一つに「大変革期を乗り越える産業イノベーションの推進」を掲げており、強靭で持続可能な産業構造を構築し、地域経済の活性化と新たな雇用や働き方の創出を図り、生活基盤の安定化を目指すと示している。また、地域産業に関わるものが協働して本市地域産業に希望と活力を与え、更なる振興に取り組むために、新潟県柏崎市希望と活力ある地域産業振興基本条例を制定している。

本市が企業に行う支援策は多種多様にあるが、地域経済の活性化に効果が現れているのか、また、多くの企業に支援の情報が周知できているのかなど、調査、研究を行い、人口減少対策や就業人口増加に結び付ける必要がある。

これまでも地域産業は経済活動に重要な役割を担ってきている。今後も、地域経済の発展、市民生活の向上を担う必要があり、重要な課題だと捉え、「産業支援の在り方」をテーマに設定した。

柏崎青年工業クラブとの意見交換

農業委員会との意見交換

活動報告

１・農業委員会との意見交換会（抜粋）

農業委員会）一番にお願いしたいのは、今年度の高温・渇水の対策の強化だ。先日、新潟県農林水産業総合振興事業と柏崎市高温渇水被害対策営農支援事業からの補助金があると連絡があり、本当にありがたい。ほかにも、市の農業振興支援事業の補助金を使っており、県と比べ比較的簡単に手続きができるので、助かっている。

産建委員）　高温・渇水の支援として、柏崎市は１２月定例会議において、３０アール以上コシヒカリを作付している方に、１０アール当たり４，０００円この支援について、意見を伺いたい。

農業委員会）農家の半数くらいが１０反以下という現状なので、どうして下から対象としてくれないのか疑問だ。
なぜ３反からなのか。それ以下はなぜ見放してしまうのか。

農業委員会）コシヒカリだけが対象か。新之助なども入れてもらえたらよい。
どうしてコシヒカリにこだわったのか。

農業委員会）市やえちご中越農業協同組合等からコシヒカリの作付を減らし、それ以外を作るようにと要請が生産現場にあった。今回、コシヒカリだけに１反４，０００円出すのは、コシヒカリ以外の作付に協力した人たちに対する支援が何もなくなってしまう。今後の事業費の使い方についても考えて、議論していただきたい。

産建委員）農業支援の在り方については当局側に研究すると表明しているので、皆様の意見を、行政へしっかりと届けていきたいと考える。

２・柏崎青年工業クラブとの意見交換会（抜粋）

工業クラブ）機械が古く入れ替えたい会社は多いが、新しいことに挑戦しないと補助金対象とならない。機械の入替えを補助金対象としていただけると活用しやすい。

産建委員）　先端設備導入に対する助成金がある。先端技術を求める内容だ。今までと同型機械の入替えは先端技術に当てはまらないのだろう。

工業クラブ）何をもって先端技術とするのか不明なところがある。

工業クラブ）効率よりもっと上を求められている。十人程度の家族経営の会社だと対応が厳しく、ハードルが高い。そこに、新しい機械を入れて大きくすることも大事だと感じている。
毎年補助金申請しているのは、数十人、１００人単位の会社ばかりの印象だ。

工業クラブ）空調関係の省エネルギー補助金が、新規導入を対象としておらず、使うことができない。何年も新規も対象としてほしいと伝えているが、変わらない。

工業クラブ）最先端設備で省エネルギーの高価なエアコンを導入し補助されても、安価なエアコンを購入した方が自己負担分としては安くなるという現実がある。

３・一般社団法人柏崎観光協会との意見交換会（抜粋）

観光協会）インバウンドの需要も広げていかなければならないと考えると、やはり宿泊がネックになる。それを補填する意味でも、花火だけでなく通年の観光資源である海を生かしての観光誘客を検討していきたい。スキー場のシーズンは数か月だが、海は一年中ある。それは強みだと思うが、海の観光コンテンツ整備が課題だ。

観光協会）最近は夜にタクシーも代行もつかまらないという事を聞く。何かしらの対策はないものか。

産建委員）ドライバー不足は深刻だ。つかまらないのであればホテルに泊まるという選択肢もあるが、そもそもここでもホテルの不足が影響している。これも深刻な課題の一つだ。

観光協会）食といえば、柏崎は菓子もアピールできるポイントだ。「菓子和咲」と称して菓子組合がお菓子の街柏崎を展開しているが、それをより拡大していくのも得策だと考えている。

産建委員）令和６（２０２４）年度の事業計画に「新たな観光コンテンツの開発」とあるが、何かキーワードになるものはあるのか。

観光協会）観光誘客で最も大切なのは「プレーヤー・人材」だと考えている。例えば、市内ではカフェを開業する若い人が増えている。新たな感性を持ったカフェを巡るような展開も可能性があると思う。一般社団法人柏崎観光協会が新たな会員として、できるだけ多くの若い経営者に入会を促すことで、新しい可能で生まれるのではないかと考えている。ぜひそれを進めていきたい。

４・市民との意見交換会（抜粋）

テーマ「産業支援の在り方～雇用の場の確保～（会場・産業文化会館）

・障がい者雇用について企業の理解がもっと必要ではないか。
・若者が定着するよう、お金の面だけでない支援が必要である。
・柏崎市の基幹産業であるものづくりを活かし、防衛産業やロボット開発などができないか、これらのことを研究することも必要である。
・原子力関係の研究施設などを誘致することはできないか。
・水素エネルギー開発に力をいれてはどうか。

テーマ「産業支援の在り方～（会場・各コミセン）

・起業・新規参入がしやすい環境づくりが必要。
・スムーズな手続きのための工夫が欲しい。
・補助金を有効活用してもらうには、事業の目的や意味合いなどを伝える必要がある。
・色々な支援があるだろうが、PRが足りていないように感じる。
・中小企業の賃上げに向けた支援が必要ではないか。
・新規就農者への支援は大事だが、継続している人への支援も必要ではないか。
・企業誘致の際には、住民ともしっかりと議論する必要がある。
・補助金はないよりあった方が助かるが、補助金ありきになっていないか。
・観光、飲食店、旅館などの異業種交流、連携、チームワークが必要ではないか。

委員の考え

委員）

・意見交換会において多く聞こえたのは「補助金・助成金」制度利用の際の申請手続きがもう少し容易であってほしいという声であった。
手続き書類は数多くあり、そのすべてを簡易にするのは大変な作業であると感じる。
であるならば、申請をする利用者の疑問やニーズに応えられる相談窓口を設置するなどして、希望者のやる気を削がない対応を図ることが望ましいと考える。
・ブランドとは「他との差をつける」こと。自らの発信によるブランドの売り込に加え、行政からも売り込みにかかわる支援をすることで「自治体からのお墨付き」となり、消費者に安心を付加させることにつながるものと考える。支援はお金だけではない。

委員）

・各種産業支援の補助金についての周知が不足している。あるいは偏っているように感じる。
・柏崎市の基幹産業はものづくり産業であるが、それだけが柏崎市の産業ではない。他にも産業はあるわけなので違う産業の方々が価値を見出せるような支援の在り方が必要なのではないか。
・産業支援をするにあたり、人材の確保育成は必須。さらに強化が必要と考える。

委員）

・行政が行う産業支援は直接的な資金の支援と市民が活発に事業を進められる環境整備の支援があり、そのいずれもが詳細に調査されたデータに基づいて実行されるべきであると考えます。
・農業に関しては土壌の分析や傾斜地の方角や斜度、地下水位など地形の分析、過去に遡って降水量や気温などの気象条件の分析、市場の優位性などを分析して関係団体と共有することで、柏崎のそれぞれの地域に適した作期、作目を調査する必要があると考えます。これらは個々の生産者が取り組むより行政とそれぞれの団体が協働で取り組むことで農業全体に活気が出てくることにつながると考えます。
・また、産業は人によって支えられ、どんな産業に関しても暮らしやすさが伴っている必要があると考えます。人口減少が進む地方では小さいながらも熱意のある人同士が繋がれる環境づくりとそれを行政が知り、呼応することが暮らしやすさや自立的に稼ぎ出す原動力につながると考えます。

委員）

・わかりやすい情報提供と申請手続きの支援
・意見交換会でも意見多数。利用者の増加。
・利用者の目的にあった提供と組立
・生産性向上支援のパッケージ化（ストーリー化）
・産業支援全体としての評価指標
・利用者の実情にあった段階的な支援
・（仮称）産業ビジョンに基づく産業振興策
・グランドデザインに基づくブレない産業政策
・商業、工業、農業、林業、水産業、観光業の連携

委員）
・昨年一年間、市民や農業関係、商工会関係、観光業界関係などの団体と意見交換会をさせて頂き感じたのは、行政が用意している補助金や助成金と、市民が求めているものとのズレがあるのではないかということです。
「補助金や助成金があるのを知らない」、「面倒そうなので使おうと思わない」「補助金をもらうための決まりが厳しすぎて自分にはあわない」などの声も聴かれました。
まずは、分かりやすい周知の仕方、申請のサポート体制に力を入れるといいのではないかと感じます。
次に、補助金や助成金を活用した人に対しては、なぜ活用しようと思ったかの動機や、申請方法はどうだったか、また活用したいと思うかなど、詳細な聞き取り分析をし、より使いやすいものに変えていく必要もあると感じます。
そして、今は個人で小さく起業する人も増えています。大きい事業者に対する支援だけでなく、小さな事業者や個人向けの支援も必要ではないかと思います。
・補助金や助成金の制度はあると助かると思いますが、資金的な支援だけでなく、何に困っているのかを捉え、他業種間とつなぐなど、人と人、事業者と事業者が連携していくような、伴奏型の支援もできると助かるのではないかと感じました。
・少子高齢化の現代においては、各々が頑張るだけでなく、異業種間との連携、ノウハウのシェア、他市と協力をしながら、新潟県全体が盛り上がっていく方法を考えていくといいのではないかと思います。

委員）
・行政が進める目標を達成するために行った補助金及び助成金に対しての検証や分析を更に深掘りする必要があるのではないか。
・市民や企業の声を聞くことは重要あるが、行政の思いが伝わる支援が少なくなっているのではないか。
・補助金や助成金が個人や単独の企業利益向上だけになり、業界全体に結び付くものとなっているのか。
・資金的な支援だけではなく、将来を見据えた専門的な調査、研究を行うことも生業支援につながるのではないか。

委員）
・産業支援は必要と考えるが、柏崎市としての評価及び企業による評価や経済的効果が見えない。
評価の在り方及び見える化が必要ではないか。
・長期にわたり、継続している補助事業については事業内容を精査すべき。（社長のたまご塾等）
・商業などは、後継者問題もありまちの存亡にかかわる、見える支援が必要。
・農業支援についても高齢化や後掲不足に対する支援を検討する必要がある。
・ブランド化については、セグメントやターゲットを定めマーケッテングをし、支援をする必要がある。
・すべての産業において、人材不足に対する支援及び育成支援が喫緊の課題ではないか。
・中心市街地において買い物難民が発生するような事態である。まちづくりにかかわるが商業支援が必要ではないか。
・観光産業は海だけでは成り立たない。持っている資産を連携し資源化していく事が求められる。
・海の大花火大会もえんま市も何十万人の観客といているが、柏崎の経済にどれだけ効果があるのか、柏崎にお金が落ちる仕組みに対する支援が必要。
・循環型経済を目指した産業支援の在り方を検討すべきと考える。

本日の意見交換はテーマである産業支援の在り方について
産業建設常任委員の考えと、皆様のご意見を伺わせていただきたいと考えております。
よろしくお願いいたします。

委員長・阿部　基　　副委員長・田邉　優香
委　員・真貝　維義　　相澤　宗一　　三宮　直人　　池野　里美　　山崎　智仁